

平成 26 年度(2014)
大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書

湯ノ花集落



2015 年 3 月

宇都宮大学 湯ノ花咲かせ隊

【目次】

I. はじめに	3
(1) プロジェクト研究の紹介	
(2) 湯ノ花集落の概要	
(3) 湯ノ花咲かせ隊の哨戒	
(4) 実施スケジュール	
II. 1年間の活動	5
(1) 活動内容の詳細	
III. 集落活性化案実行について	14
(1) 宇都宮市での PR 活動	
まちづくりサミット	
宇都宮大学 峰ヶ丘祭	
(2) 湯ノ花温泉の利用改善	
のれん作成	
IV. おわりに	19
—2年間の活動を通して—	
—これから—	



I. はじめに

(1) プロジェクト研究の紹介

私たちが所属する、宇都宮大学教育学部総合人間形成課程では、2・3年時に必修授業として「プロジェクト研究」という実践力養成型の授業がある。この「プロジェクト研究」とは、担当教員の指導の下に、学生自らが主体となり、立案・計画・参加観察・発信・実施等に携わる経験をして、社会的交流並びに社会貢献を意図した実践的活動を行う授業である。都市計画等を専門研究とされている、陣内雄次教授率いるプロジェクト研究では、学生が主体となってまちづくりに携わることで、社会人に求められるスキルや能力を研ぎ、自己成長を図ることを目的としている。

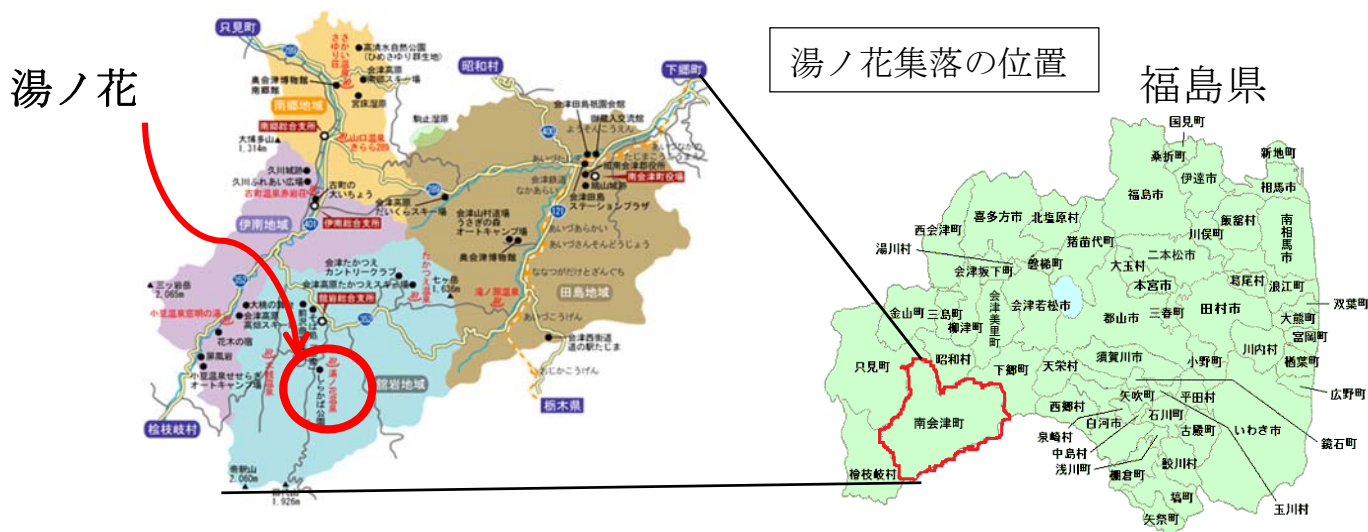
(2) 湯ノ花集落の概要

(平成 26 年 4 月 1 日現在)

- ・人口：225 人(男性 113 人、女性 112 人)
- ・位置：福島県南会津町、旧館岩村に属する
- ・世帯：87 世帯
- ・主な産業：農業、観光
- ・歴史：湯ノ花温泉は、700 年前の鎌倉時代に発見されたと伝えられ、幕末の来沢藩士、雲井龍雄も利用したと考えられている。湯ノ岐川の上流から順に湯端の湯、天神湯、弘法の湯、石湯の4つの共同浴場があり毎朝地元の人が湯を落とし掃除をして使用している。泉質はいずれもナトリウムやカルシウムを含む単純泉で、婦人病、神経痛、疲労回復等に効果がある。

館岩には腕の良い職人さんが多く、雪が深いため、しっかりした構造の建物がつくられてきた。丁寧に探すと、由緒ある建物や素晴らしい職人技を見つけることができる。

清流湯ノ岐川沿いに点在する四つの共同浴場は、疲れを癒す温泉として、地元の人にはもちろん、登山者や釣客にも利用され愛され続けている。共同浴場を中心に旅館、民宿が点在し、豊かな自然と素朴な人情を心ゆくまで楽しむことができる。



(3). 福島集落活性化し隊の紹介

実施者

宇都宮大学教育学部総合人間形成課程 1~4年生 計11名

【4年】	【3年】	【2年】	【1年】
佐川拓也	武井悠（学生代表）	菊地和夏	平子めぐみ
中木美佳	小島美咲	山口華奈	
	庄子香奈絵	渡辺菜々星	
	永井美奈子		
	湯村楓		

◎指導者

陣内雄次（宇都宮大学教育学部教授）

○協力者

板谷洋介（もりよし食堂店主）

(3) 実施スケジュール

月日	活動内容
5月6日(月)	お花見
8月26日(月)	9月宿泊 戸別訪問打ち合わせ
9月11日(木) - 9月12日(金)	湯ノ花訪問 戸別調査・そば打ち体験
11月3日(月)	まちづくりサミット
11月7日(金)	赤カブ収穫
11月9日(日)	大学祭 打ち合わせ
11月22日(土) - 11月23日(日)	第66回 宇都宮大学 峰ヶ丘祭
11月30日(日)	収穫祭
12月19日(土) 12月20日(日)	福島県知事表敬 地域づくりオープンカフェ
1月10日(土) - 1月11日(日)	歳ノ神
3月9日(月)	湯ノ花集落にて活動報告会

Ⅱ. 1年間の活動

(1) 活動内容の詳細

お花見

実施日：平成26年5月6日(月)

○目的

- ・湯ノ花集落のお花見に参加することで、湯ノ花の“春”を体験しながら、集落の方と交流し深い信頼関係を築く
- ・「何度も訪れたいまち 湯ノ花」のキャッチフレーズを集落の方と再確認する

○内容

- ・メンバー紹介（新メンバーを含む）
- ・宇都宮大学祭の出店に向けて
- ・宇都宮市でのイベント出店に向けて
- ・のれん作成に向けて
- ・年間活動計画について

湯ノ花の特産品である初恋漬けやたくさんの料理をいただきながら、集落の方と交流を深めた。お話しする中で、集落の方の温かさを感じ、またこのような集落の行事に多くの地元の方が来ているのを見て、湯ノ花は地元の方に愛されているまちなのだということ強く感じ取ることができた。

集落の方との打ち合わせでは、今年度の活動計画や各イベントへの出店、のれん作成など様々な内容を話し合った。新チームになってから初めての活動でもあったため、今年度の活動を円滑に進めていくためにも大切な話し合いの場となった。



↑お花見での食事の様子



↑集落の方々との打ち合わせの様子

戸別訪問調査・そば打ち体験

実施日：9月11日(木)・12日(金)

○目的

- ・集落で生活をする方々の思いを五感で感じる
- ・戸別訪問調査から今後の活動に繋がるきっかけやヒントを見つけ、年間事業計画の参考材料とする
- ・湯ノ花集落の方々との交流を図り、信頼関係を築く

○内容

(1日目)

- ・戸別訪問調査
- ・調査結果報告会
- ・懇親会(バーベキュー)

(2日目)

- ・そば打ち体験
- ・2日間のまとめ報告会
- ・年間事業計画の策定



↑ 調査結果報告の様子

1日目の戸別訪問調査では、一軒一軒を訪問するのではなく、集落の方々に三軒に集まっ
ていただきそれぞれ聞き取り調査を行った。調査内容は、大学生に求めるものと湯ノ花集
落の課題調査の2つを軸とした。三軒の戸別調査結果で共通することは「若者が少ない」
ということに対して不安を感じていることであった。また、よそ者若者の視点と昔からあ
るものの再活用と発展も重要視されていると分かった。

年間事業計画の策定では、今回の調査により田代山に注目が集まった。湯ノ花温泉や地
方特産品のPRに加え、田代山の魅力を伝えることが観光客増加につながり有益である。
さらに、雪降ろし体験や手ぬぐいの作成など積極的に意見交換がなされた。今年度の活動
で実行することは難しいものも、来年度の活動の参考としたい。年間事業計画の決定事項
としては、赤カブ収穫・初恋漬け体験、まちづくりサミットの参加、宇都宮大学峰ヶ丘祭
出店、歳の神の参加、のれん作成が挙げられる。

2日間を通して、集落の方々と学生の間で多くの交流が生まれたことを実感した。交流の
場は、学生が集落の方々の率直な意見を聞く機会であり、集落の課題を的確に認識するため、
集落の魅力を知り情報発信をするために必要不可欠なものである。集落と学生が協力をし
て事業を行うにあたり、交流を通して得られるものの効力は大きい。今後も積極的に話し
合い、和やかな空気を作り出していくことが重要であると考えます。

まちづくりサミット

実施日：平成 26 年 11 月 3 日(月)

場所：オリオンスクエア（宇都宮市）

主催：宇都宮青年会議所

○目的

宇都宮市民の方々に学生の活動を知ってもらうとともに、多くの人に「湯ノ花」の名前を周知させる。

○内容

宇都宮市で初の取り組み「まちづくりサミット」では、「地域と人をつなげよう 未来につながるまちづくり」のテーマのもと、5つの自治会・NPO 法人など 10 団体が参加した。

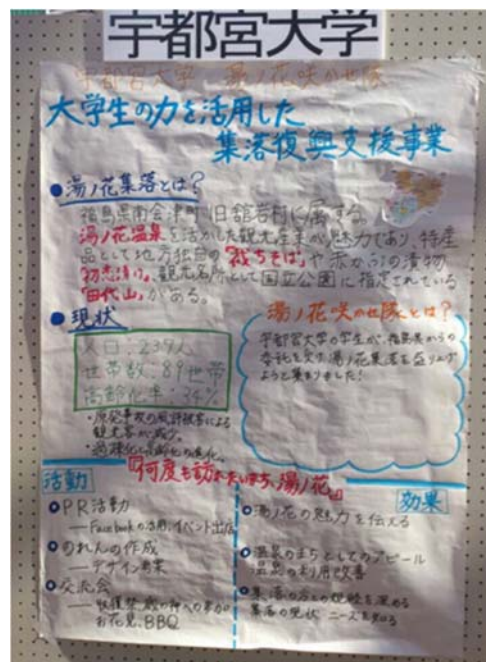
展示物として私たちの活動記録をまとめた模造紙を掲載し、ブースには見に来てくださった一般客などに配布できる資料を置いた。資料は、2 年間の湯ノ花での活動をまとめた資料の他、観光パンフレット、学祭の宣伝チラシの 3 種類を配布した。

会場に足を運んでくださった宇都宮市民の方々がたくさんいて、このようなまちづくりの活動に興味をもってくださっている方は多いのだと感じた。この場で湯ノ花の周知活動ができたと同時に、宇都宮大学の学祭のお知らせもすることができたので、とても有意義な時間となった。

↓まちづくりサミットの様子



↑まちづくりサミット終了後の集合写真



↑当日掲載した記録活動

赤カブ収穫

実施日：平成 26 年 11 月 7 日(金)

○目的

湯ノ花集落の特産品である赤カブの「初恋漬け」の製造を一から体験する
大学祭にて販売する予定である「初恋漬け」の製品の手伝い

○内容



赤カブを収穫しました！大きなカブを一生懸命探しました！



切って、甘酢に漬けてある状態の赤カブ。切り方を覚えるのも一苦勞でした。



お世話になった皆さんと一緒に一息。貴重な体験、ありがとうございました！！

宇都宮大学峰が丘祭

実施日：平成26年11月22日（土） 午前10時～午後18時

平成26年11月23日（日） 午前10時～午後18時

○目的

- ・「湯ノ花」の名前を一人でも多くの人に知ってもらうこと
- ・湯ノ花の特産品を集落の方々と大学生が協力して販売することで改めて湯ノ花の良さを認識し、今後のPR活動に生かすこと

○活動内容

ばんでい餅とはつ恋漬けをメインに、食品5品と物品5品を販売。商品を買ってくださった方には湯ノ花の紹介をかいたリーフレットを配り、一人でも多くの人に湯ノ花を知ってもらおうとPRに力を入れた。また、まちのPRとして、たかつえスキー場のパンフレットも一緒に配布した。二日間という長い時間であったが、一日目は湯ノ花集落の方が8名、二日目は湯ノ花集落の方が三名お越しくださり、学生と一緒に販売をした。

・売上結果

ばんでい餅：971個

はつ恋漬け：68個



峰が丘祭に出店したことでfacebookの閲覧数が多く増えるなど、PR活動としての十分な結果も得ることができた。また、学生と集落の方との間も一つのことを協働することで近づくことができたと感じた。

しかし、その反面、初めての試みであったために多くの反省点や課題も上がった。少人数で出店するには大規模になってしまったために、細部まで手の行き届かないところがあった。また商品を多くしてしまったがゆえに、なかなか目標に届かない商品が多くあった。特に初恋漬けは目標売上の200個から大きな差が出てしまった。峰が丘祭では、あくまでもターゲットを大学生に絞って出店を行うことでより多くの大学生に湯ノ花の名前を知ってもらえたのかと思う。今後のPR活動でも、ターゲットは誰なのか、を明確にして活動していきたい。

収穫祭

実施日：平成 26 年 11 月 30 日(日)

○目的

- ・湯ノ花集落の方と交流を深め、地元の行事を学ぶ
- ・平成 26 年度宇都宮大学祭での売り上げを報告する

○活動内容

【収穫祭】

収穫祭では料理の準備や片づけのお手伝いをさせていただいた。さらに、臼と杵を使って、餅つきの体験をさせていただいた。学生の中には餅つき体験を初めて体験した者もあり、大変貴重な経験となった。料理は、集落の方々に教えていただきながらついたお餅や、特産品である赤カブのはつ恋漬けなどを集落の方々とお話をしながらいただいた。また、学生が収穫祭の前日に作った手作り餃子を焼き、集落の方々に食べていただいた。餃子は初めて食べたという方もいて、「とても美味しいよ」「食べる機会が無かったのでとても良かった」と言ってくださった方もいた。湯ノ花集落に伝わる歌を歌い、集落の文化や味を感じることができ、とても楽しい時間を過ごすことができた。



【宇都宮大学祭での売り上げ報告】

収穫祭での食事の後は片づけを行い、11月 22 日(土)、23 日(日)で販売した個数や金額の報告を行った。大学祭で無事に成功したこと、協力してくださった集落の方々に感謝をするとともに、また来年もぜひ行いたいという意見が学生側からも集落側からも多く出たことがとても良かった。今後の活動に向けて、お互いが一緒に協力していこうという姿勢が見られ、とても良い報告会となった。



↑ 餃子 300 個を焼いている様子



↑ 大学祭での売り上げ報告の様子

地域づくりオープンカフェ(活動報告会)

実施日：12月20日(土)

場所：福島県福島市杉妻会館4階「牡丹」

○目的

- ・各グループの学生や集落住民、一般県民が意見を交わし、各グループの活性化策に磨きをかける
- ・2年間の活性化事業の一つの集大成を報告し、今後の展望を考える

○活動内容

2年目となる実態実験の部として、今年度の活動内容を報告した。2年間の活動全体を振り返り、集落活性化事業を行う際の2年間という期間の中で何らかの成果を残すということは容易ではないことを実感した。

「湯ノ花咲かせ隊」では、昨年度の実態調査で課題となった「情報発信」と「湯ノ花温泉利用改善」のキーワードをもとに、宇都宮市のイベントでのPR活動や、湯ノ花温泉のれん製作を中心に活動を行ってきた。今年度の活動を通し、少しずつではあが、湯ノ花集落の認知度の向上に繋がってきたと感じる。また、集落の方々と学生が「一緒に」活動を行う機会が多くあったため、集落の方々との信頼関係も築けてきたと感じる。

他のグループとの比較をして、湯ノ花集落の資源の豊富さを実感したと共に、「何度も訪れたいまち湯ノ花」を目指していく上で何を指標とするのか、視覚化できる基準をつくる必要があると感じた。観光地として活性化をしていくためには、達成したいノルマを具体的に決めていき、集落の方々と学生の意見や考えの方向性を一致させていくことがポイントとなると考える。

大学生の力を活用した集落活性化事業は2年目を終えたが、今後も湯ノ花集落との関わりを繋げていく予定である。来年度以降は、より多くの学生や一般の方々に、湯ノ花集落の魅力を感じて貰うために、バスツアー等の企画ができればと考えている。

集落の方々と学生が『楽しい』と感じられる活動を考え実行し、湯ノ花集落に花を咲かせていけるよう活動を繋げていきたい。



↑「湯ノ花咲かせ隊」活動報告発表の様子



↑「湯ノ花咲かせ隊」集合写真の様子

歳ノ神

実施日：平成 27 年 1 月 10 日(日)

○目的

- ・湯ノ花集落の伝統行事に参加することで、集落の方々との交流を深める
- ・集落の方々と 1 年間の安全を祈願する

○活動内容

「歳ノ神」は、小正月の時期に全国各地で行われる「どんど焼き」のことで、去る年へ感謝を捧げ、新しい一年の無病息災を祈る火祭り。去年まで飾られていた達磨（だるま）や神棚の注連（しめ）縄、年初を華やかに彩った正月飾りなどが、お焚き上げにされる。私たちが準備のお手伝いをさせていただき、歳ノ神の最中には甘酒やお餅をいただいた。



↑ 完成した歳ノ神



↑ お焚き上げの様子

○お世話になった民宿：「みちのく」さん



「みちのく」さんのおもてなしのおかげでゆっくりと過ごすことができ、振る舞っていたいただいたお料理もとてもおいしかったです。ありがとうございました！

湯ノ花集落報告会

実施日：平成 27 年 3 月 9 日(月)

○目的

- ・今年度の年間報告会並びに 2 年間の活動報告会を実施
- ・2 年間の活動を通して見えてきた課題・来年度からの活動等の意見交換会を行い、長期的な活動を行うための方法を集落の方々と共に考えていく

○活動内容

まず初めに、学生から 2 年間の活動報告を行った。昨年度の実態調査の経過から、今年度の実証実験の部の内容を振り返った。今年度の活動内容は各々学生が役割を分担をし、各々の学生の思いを発表していった。一人ひとりの学生が感じることは、多方面からの視点であるため、各々の思いを込めた言葉であった。次に、集落の方々からの感想や今後の話等の意見を頂き、今後の湯ノ花の展望に向けて話し合いが進んでいった。

改めて 2 年間という時の早さを実感すると共に、集落の方々の意識の変化も感じられたことは何より嬉しいことである。



2 年間という大学生の力を活用した集落復興支援事業は終わってしまったが、湯ノ花集落の活性化は今後が重要である。継続的な活動をしていくことを考慮すると、この 2 年間の活動は湯ノ花を耕した段階だと考えられる。今後種を撒き、そして芽が出て花が咲くまで、出来る範囲で携わっていきたい。

2 年間学生をあたたかく迎えて下さり本当にありがとうございました。



Ⅲ. 集落活性化案実行について

(1) 宇都宮市での PR 活動

① まちづくりサミット

事業名：つながるまちづくりサミット～つながろう！広がろう！地域のまちづくりコミュニティ～

実施日：平成 26 年 11 月 3 日(月)

場所：オリオンスクエア（栃木県宇都宮市江野町 8 番 3 号）

主催：宇都宮青年会議所

まちづくりサミット事業実施に至る背景

現代では、行政と市民団体が協働でまちづくりに取り組み、豊かな社会の中で暮らすことができる。一方で、地域に住み暮らす市民はその豊かな社会が当たり前になり、地域に無関心になっているように思える。そこで、より良い社会を作るために多くの市民が率先してまちづくりに取り組み、多くの市民に地域の主役として自ら行動していただく必要があると考えた。

湯ノ花咲かせ隊の参加方法

当日、湯ノ花咲かせ隊のブースを設け、2 年間の湯ノ花での活動をまとめた資料の他、観光パンフレット、学祭の宣伝チラシの 3 種類を配布すると共に口頭での情報発信を行った。また、大スクリーンにて、活動内容のプレゼンテーションを行った。参加団体の 10 団体の中で大学生の団体は 1 団体であったため、大学生の活気を出せるよう、明るさを絶やさぬよう活動を行った。

効果

昨年度挙げられた、湯ノ花集落の「情報発信不足」を元に、宇都宮市民をはじめとする多くの一般の方々に情報発信を行えた。宇都宮市の中心地で開催されたことと、祝日であったため、子供連れの方々や、学生の方々にも直接情報発信することができた。

他の参加団体の方々のブースをいくつか周り、湯ノ花集落の魅力や活動の周知とともに、大学祭で郷土料理や物産品を販売予定としていることの周知を行い、PR した。話をしていく上で興味を持って下さる方や、活動を応援して下さる方々と出会うことができた。

当日、区長様を含めた 2 名の方が、湯ノ花集落から宇都宮にお越し下さり、学生と共に活動に参加された。宇都宮でのイベントは初めてであったが、集落の方々と共に参加できたことはとても嬉しく、学生のモチベーションの向上にも繋がった。

② 第66回 宇都宮大学 峰ヶ丘祭

実施日：平成26年11月22日(土)、11月23日(日)

場所：宇都宮大学 峰キャンパス(栃木県宇都宮市峰町 350)

大学祭出店にあたって

集落の方々とは大学祭に関する打ち合わせを5月のお花見の時にいき、幾度の打ち合わせを重ねて11月の大学祭当日を迎えた。学生側は、6月から週1回のペースで行われた学祭実行委員会に参加し、出店に関する準備を進めていった。

食品名	売上個数
ばんでい餅	971
初恋漬け	68
餅あられ	24
そばあられ	
おらがそば	4

物品名	売上個数
湯ノ花温泉マスコット	4
ストラップ	1
布草履	1
手作り巾着	
巾着(会津木綿)	1



↑販売の様子



↑2日目終了の全体集合写真

効果

宇都宮大学の学生に情報を発信できたと共に、地域の方々へ湯ノ花集落の郷土料理を実際に販売できたことは現実味のある情報発信ができたと感じる。特産品を販売するにあたり、一番主とした「ばんでい餅」は、試食も置いたため、多くの方が足を止めて興味を持って下さった。試食された方々ほとんどが、ばんでい餅を買って下さった。一度買った後に、「おいしかったから」と言って再び買いに来て下さった方もいた。郷土料理や特産品を湯ノ花集落の方々と一緒に販売することができ、集落の方々や学生双方にメリットがあった活動だと感じる。イベントに参加するにあたり、準備等は時間がかかるが、断片的なイベントではなく、継続的に行っていくように考えていく事が必要だと感じた。

決算

平成 26 年 11 月 22 日(土), 11 月 23 日(日)

第 66 回 宇都宮大学 峰ヶ丘祭

食品名	個数	単価	売上	金額
ばんでい餅	1080	100	971	97,100
初恋漬け	200	500	68	34,000
餅あられ	100	350	24	8,400
そばあられ				
おらがそば	100	420	4	1,680
				141,180

物品名	個数	単価	売上	金額
湯ノ花温泉マスコット	30	250	4	1,000
ストラップ	20	250	1	250
布草履	15	1000	1	1,000
手作り巾着		600		
巾着		700	1	700
				2,950

141,180 円 + 2,950 円 = 144,130 円

144,130 円

	売上金額	支払金額	集落残金
ばんでい餅	97,100	77,680	19,420
初恋漬け	34,000	23,800	10,200
餅あられ	8,400	6,960	1,440
おらがそば	1,680	1,360	320
マスコット他	2,950	2,360	590
合計	144,130	112,160	31,970

(2) 湯ノ花温泉の利用改善

のれん作成

○のれん作り

来訪者が温泉を利用しやすくすることを目的に、温泉の前ののれんを設置する。

効果としては、温泉利用人数の増加・温泉のまちのアピールが予想される。

◎作成過程

1.メンバーでのれんのデザイン案を出し合った。



2.集落の方々にデザインを見てもらい、田代山や蕎麦の花を描いてほしいなどたくさんの意見を頂いた。要望を基に、のれんの業者に依頼を行った。

3.色合いや背景などに修正を加えてもらったりと、何度もやり取りを行った。



4.完成品



のれん作成にあたって

昨年度の実態調査において「湯ノ花温泉の利用改善」が課題として挙げられていた。来訪者にとって道案内となるようなのれんを設置することを目的とし、分かりやすい目印になるようにのれん作成に取り掛かった。

学生のデザインをもとに、集落の方々との意見を何度も交わし、のれんのデザインを決めていった。モチーフとなったのは、湯ノ花集落の魅力である、「そばの花」と「田代山」。背景のパステルカラーの黄色は、湯ノ花集落の景観を考慮し、優しいイメージを演出したい思いから、決定された。

今回は試作品であるため、今後、この試作品ののれんをもとに、来訪者の方々への目印や、温泉利用人数の増加を期待したい。

[依頼業者]

株式会社バンテック / オーダーのれん専門店

<http://www.e-noren.com/>

IV. おわりに

—2年間の活動を通して—

大学生事業に2年間関わって感じた3つの大事なことをまとめます。

1つ目は、事業の目的をもっと参加者全体で共有することです。大学生事業の目的は、大学生の力を活用し、集落が本来持つ地域資源やつながりなどの「内なる力」を呼び起こすことで、地域の復興と振興を図ることとされています。この事業の目的を理解し、活動に取り組んでいる大学生、及び集落住民はどれくらいいるのでしょうか。この目的をしっかりと理解できていないから住民が学生に過度な期待を抱いてしまうことや、学生と住民の間で活動に対する意識差が生じてしまうのだと考えられます。また、学生にこの事業は何のために行われているのか、自分たちが果たすべき目標はなんなのか、それを自ら考えることです。この何のためか考えることをしなくては、学生が過疎地に関わるという意義もなくなり、2年間ただ集落の人と遊んだだけになってしまったということにもなりかねません。地域振興課の方は、事業のはじめの際に、集落住民と大学生それぞれにしっかりとこの事業の真意を伝える必要があると感じました。

2つ目は、行政によるバックアップです。住民と学生だけで主体的に活動するようになるには、お互いのことをある程度信頼できるようになっていなければなりません。そのためには、いかに住民と学生の間にある心の壁を取り除くかが鍵となってくると考えられます。しかし、住民は集落という既に出来上がっているコミュニティによそ者が入ってくことに抵抗がある人もいれば、社会経験や知識の乏しい若者に対して信用できないと考えている人もいることが現状です。学生は、自分たちの知らない土地で知らない人達とどんな活動をすればよいのか不安があります。そこで、最初は行政や大学教員が後ろ盾することで、住民・学生それぞれが活動しやすくなる環境をつくるのが重要であると考えます。ここで大事なのがあくまでも行政や教員が主体にならないことと、住民と学生の親交が深まり、活動が軌道に乗ってきたら、退くことであると考えます。当たり前のことではありますが、これがうまくできるかできないかで、住民と学生の活動の継続性に大きく影響を与えると考えられます。また、委託費に関して、今のままだと交通費としか使うことができず、活動に限界があるのではないかと感じました。学生の柔軟な発想を活かすことがこの大学生事業の売りでもあるので、現段階では柔軟な発想を活かしきることができていないのが現状です。委託費のあり方について、ご検討していただきたいと感じました。

3つ目は、大学生事業の継続です。この大学生事業は、過疎地の復興・振興のためでもあります。大学生にとっても大きなチャンスです。この事業・まちづくりを通して、大学では学ぶことができないことを実体験として得ることが出来ます。学生グループメンバーや集落の住民や行政職員の方など、様々な人と交流し、意見を交わすことで、社会経験を積み、成長できるチャンスなのです。大学生事業は、学生に成長するチャンスを与えるとも言えます。したがって、大学生が成長し、今後、大人として、地域の担い手として成長していくために大学生事業をこれからも続けていきたいと思っております。

—これから—

私たち宇都宮大学湯ノ花咲かせ隊は、大学生の力を活用した集落活性化支援事業の一環として湯ノ花集落の活性化に関わらせていただき大きな学びを得ることができました。区長さんをはじめ、私たちをあたたかく迎えてくださった集落の皆様に深く御礼申し上げます。

さて、来年度からは地域づくり総合支援事業の申請をしていただき、その中での集落活性化事業となります。そこで、私たち湯ノ花咲かせ隊は新たな三つの活動を提案させていただきます。これらの活動の目的は大きく分けて二つあります。一つ目は、集落内部と外部からの湯ノ花集落への愛着の醸成、二つ目は湯ノ花集落の情報発信です。現在具体的に考えていますのは、「湯ノ花通信」「湯ノ花写真展」「湯ノ花集落バスツアー」です。これらの実現に向け、主体的に行動し、社会的スキルを養っていくと共に集落の皆様との信頼関係の更なる向上を目指していきたいと思います。

また、集落活性化はプロジェクト研究という授業の一環のため、来年度の活動メンバーは多少変化することが予想されます。来年度も活動を引き継ぐ学生や新たな学生を踏まえ、若い力が湯ノ花集落に潤いをもたらすことを目指していきます。

湯ノ花集落がより多くの人に伝わり、愛される地域となるように、学生一同精一杯活動に励みますので、今後ともよろしく願いいたします。

平成 26 年度(2014)

大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書

南会津町湯ノ花集落調査

宇都宮大教育学部 湯ノ花咲かせ隊

(学生代表：武井 悠)

発行：2015 年 3 月